

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **90** 2024
秋号

Special Feature

理事長・学長からのメッセージ vol.33
奈良医大生、情熱で勝利を掴む！第76回西医体で躍動



Contents

特集	理事長・学長からのメッセージ vol.33	3
	西日本医科学学生総合体育大会が開催されました	4
	MBT 研究所だより (第34報)	6
	図書館だより	7
	国際交流センターだより vol.17	8
	働き方改革だより	10
	未来への飛躍基金だより	11
Topics	看護部の紹介	12
	奈良県の病院情報システム担当者のつながりを求めて	13
Campus News	先端医学研究支援機構だより	14
	第60回日本腹部救急医学会総会で発表しました	14
Winner Report	国際血栓止血学会 (ISTH2024) でポスター発表しました	14
	MBT 特命教員による医学部生への特別講義	15
	健康まちづくり EXPO に出展しました	15
	第2回奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	15
	Crowning Glory : 模擬国連世界大会 三大会連続 優秀代表団賞受賞	16
	看護学科オープンキャンパス 2024 を開催しました	18
	令和6年度コンソーシアム実習 (奈良医大・早大連携講座) を開催しました	18
	第7回MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催しました	18
	医学科看護学科合同科目「次世代医療人育成論」を開講しました	19
	「脳神経外科医が診る、赤ちゃんの頭のかたち外来」を開設しました	19
	実験動物慰霊祭を執り行いました	19
	第77回解剖慰霊祭を執り行いました	20
	MBT 研究所運営会議を開催しました	20
	The 32nd Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasisにて JTH Editors' Award 2024を受賞しました	20
	第150回近畿産科婦人科学会学術集会で最優秀演題賞を受賞しました	21
	第33回日本がん転移学会で若手奨励賞を受賞しました	21
	戸部眞紀財団研究助成金を受賞しました	21
第128回日本神経学会近畿地方会で若手奨励賞最優秀賞を受賞しました	21	
第8回日本集中治療医学会関西支部学術集会で最優秀演題賞を受賞しました	22	
第41回分子病理学研究会で優秀発表賞を受賞しました	22	
第45回日本炎症・再生医学会で優秀演題賞を受賞しました	22	
第56回日本医学教育学会で優秀発表賞を受賞しました	22	
Information	令和7年度 入試日程【医学部】	23
	寄附者ご芳名	23
寄附者ご芳名	「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	23
	メディア掲載情報	24
	編集後記	24

奈良医大発展に関するトピックス

理事長・学長 細井 裕司

1. 新駅と周辺のまちづくり、新病棟の計画

7月22日「県と橿原市のまちづくり協議会」が県庁で山下知事と亀田橿原市長が出席して開かれ、医大周辺のまちづくりについて協議されました。県と市が協力して新駅と新駅周辺のまちづくりを進め、2030年度中の供用開始を目指すことになりました。新駅に直結する新A棟の計画も進めています。

2. 科学研究費、AMED

①科学研究費の獲得が増加

先生方のご努力で奈良医大の科学研究費をはじめとする研究費の獲得額が増加してきました。現状は、新規と継続を合わせて全国の単科医科大学25大学中、件数で第6位、金額で第9位です。

常に単科医科大学のトップ大学との比較を行いながら、トップをめざして前進してきました。この10年間でトップ大学との差は1億6000万円縮まり、1億円以下となりました。

新規と継続を合わせての採択件数では、2018年にトップと101件の差がありましたが、2023年には46件差に縮まりました。採択額においては、2012年には2億8000万円差でしたが、2019年には1億9800万円差となり、2023年には9800万円差と大幅に縮まりました。10年前は極めて大きな差でしたが、特に2019年から急速にトップ大学の背中が見えるようになってきました。

②大型研究費の獲得が増加

本年度(2024年度)に新規で1億円以上の研究費をAMEDから獲得された先生は以下の3名です。

武田真幸がんゲノム腫瘍内科学教授(195,000,000円)、松本雅則血液内科学教授(311,580,000円)、中村修平生化学教授(390,000,000円)

3. 異業種との連携

奈良医大は、種々の異業種と連携し、積極的に社会貢献を進めております。8月22日には日本郵便株式会社近畿支社と包括的連携に関する協定を結びました。早速、奈良医大・MBTコンソーシアムが行っています「第7回難病克服支援WEBセミナー」「みんなで守るいのちの映画祭けいはんな上映会」に協力いただきました。

4. サステナブルグロースカンパニーアワード(公益セクター部門)を受賞

8月20日、奈良医大は、軟骨伝導による社会貢献への取り組みが認められ、船井総合研究所が運営するサステナブルグロースカンパニーアワード(公益セクター部門)を受賞しました。過去に国・公・私の学校法人が受賞したことはなく、奈良医大が初めてです。

持続的な成長を実現した上で、地域や業界を変え、社会や国家にも良い影響を与えられる存在を目指す企業をサステナブルグロースカンパニーと定義し、表彰されています。東京品川のホテルに3000人が集まり、表彰式が行われました(写真)。また、内容はForbesに掲載されました。



サステナブルグロースカンパニーアワード受賞



受賞式典に入場 細井学長

西日本医科学生総合体育大会が開催されました

西医体で学生が躍動！ クラブ活動への情熱を存分に発揮！

- ラグビー部：優勝（3大学合同チーム）
- 弓道部：女子団体 優勝、男子団体 準優勝
- 卓球部：女子団体戦 準優勝、女子個人戦シングルス 準優勝
- 陸上競技部：男子 800m 2位、男子 1500m 3位
- 野球部：3位
- バレーボール部：男子 3位
- 水泳部：女子 100m バタフライ 3位、女子 100m 平泳ぎ 3位、男子 200m バタフライ 3位

この夏、第76回西日本医科学生総合体育大会が開催され、奈良県立医科大学の19クラブが出場しました。どのクラブも力の限りを尽くし、表のような成績をおさめました。

今年度は、全医体（全日本医科学生体育大会王座決定戦〈西医体と東医体の上位校が出場〉）に弓道部、卓球部、バレーボール部、ゴルフ部が出場します。（ラグビーは全医体の設定なし）

次年度からは新キャンパスがクラブ活動の拠点となる予定です。新しく環境の整った体育施設で活動をすることで、今後ますます多くのクラブが躍進することを期待しています。

- ◇期間：令和6年8月5日～8月18日
- ◇主管：中国・四国ブロック
- ◇代表主管校：川崎医科大学
- ◇参加大学数：44校
- ◇競技種目：20種目

出場クラブ	成績
硬式テニス部	男子 団体戦 1回戦敗退 女子 団体戦 1回戦敗退
軟式テニス部	男子 団体戦 1回戦敗退 個人戦ベスト 64 女子 団体戦 1回戦敗退 個人戦 3回戦敗退
ラグビー部	優勝
サッカー部	1回戦敗退
野球部	3位
バドミントン部	男子 シングルスベスト 16 女子 シングルスベスト 32
卓球部	男子 1回戦敗退 女子 個人戦 シングルス準優勝 ダブルスベスト 16 団体戦準優勝
バスケットボール部	男子 2回戦敗退 女子 2回戦敗退
バレーボール部	男子 3位 女子 1回戦敗退
水泳部	男子 200m バタフライ 3位 女子 100m バタフライ 3位 50m バタフライ 7位 100m 平泳ぎ 3位 50m 平泳ぎ 6位 4×50m メドレーリレー 8位
弓道部	男子 団体準優勝 女子 団体優勝
ハンドボール部	8位
柔道部	男子 団体予選リーグ敗退 女子 4位
合気道部	表彰なし
空手道部	男子 形個人戦ベスト 16 組手団体戦決勝リーグ進出 女子 初戦敗退
陸上競技部	男子 800m 2位 1500m 3位 女子 やり投げ 5位
ゴルフ部	男子 団体 8位 個人 11位 女子 個人 5位
剣道部	男子 団体予選リーグ 3位 個人ベスト 32 女子 個人ベスト 8（西コメディカル）
ヨット部	スナイプ級 13位

ラグビー部

医学科4年 東山 一史

奈良医大、大阪大学、京都大学の3校合同で優勝することができました！4月からは新たに京都大学のメンバーを加えて一からチームワークを築き上げて自分たちのラグビーを作り上げていくことができました！今年は3校合同での優勝という形で終えることができましたが、将来的には奈良医大単独で西医体に出場したいと思っています。今回の西医体優勝に満足せず、今後もより一層奈良医大ラグビー部を盛り上げていきたいと思っています。

奈良医大ラグビー部のOB・OG並びに関係者の皆様方におかれましては今後とも応援のほどよろしくお願いたします。



弓道部

医学科 4年 三上 拓也

今回の西医体でこのような結果を残すことができ大変嬉しく思います。昨年度で多くの先輩方が引退し、試合経験の少ない部員が多く厳しい試合が続いていましたが、集大成の西医体に向けて部員達で様々な練習法や試合への臨み方を研究したことが今回の結果に結びつきました。OB・OGの諸先輩方にも大変喜んでいただきました。これも日頃のご支援、ご指導のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。僕自身、西医体に向けた練習の中で多くの悩みや葛藤がありましたが、良き同期や後輩、先輩方に支えられ、主将として成長することができました。今回の経験を糧に、部員一丸となってさらに精進していきたいと思っています。



卓球部

医学科 4年 笹部 大成

今回このような成績を残すことができたのは、部員が一丸となって練習に励み切磋琢磨してきた結果だと思います。また部員は大学で卓球を始めた人の方が多く、中高卓球経験者に教わりながら成長できる環境ができています。その成果として、大学で始めたばかりで団体戦の試合で勝ち星を挙げる部員もいます。卓球部は人数が多いですが部員全員が試合に出ることができ、全員が試合を楽しむことができました。来年もよい結果を残せるよう部員一同頑張りたいと思います。

最後になりますが、西医体運営をしてくださった川崎医科大学の方々に心から感謝申し上げます。



バレーボール部

医学科 3年 山西 康典

前回西医大ベスト8という悔しさをバネにして今年リベンジするという意気込みで臨みました。結果として3位という成績をおさめることができ、部員一同嬉しく思います。遠方での試合だったにも関わらずOB・OGの方々がかけてくださり、ベンチ、ベンチ外関係なく応援してくださったのが勝利の大きな要因だったと感じています。白熱した試合ばかりで、チーム一丸となって試合に挑んだあの臨場感は忘れられない素晴らしい経験となりました。とはいえ3位では満足しておらず、来年は優勝することを目標にして、部員一同目標をもって、精進に努めていきたいと思っています。



ゴルフ部

医学科 6年 川口 美優

第76回西医体ゴルフ部門は、8月5日から9日まで倉敷カントリー倶楽部にて開催されました。本大会において女子は個人5位入賞、男子は個人11位という成績を残すことができました。西医体への特別な思いから緊張感もありましたが、多くの応援が力になり、入賞という形で6年間を締めくくることができました。また今回の結果により、男女とも11月に開催される全医体への出場が決まりましたので優勝目指してより一層練習に励んでまいります。

最後になりましたが、日々ご支援いただいている先生方、また岡山県まで応援に来てくださった方々に感謝申し上げます。今後もさらなる高みを目指して精進して参りますので、何卒宜しくお願い致します。



1. KSAC-GAP ファンド採択

本学は、JST のスタートアップ・エコシステム共創プログラムのプラットフォームである「関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC)」にスタートアップ創出共同機関として参画しております。このプログラムによる第 1 回の GAP ファンドが募集され、口腔外科学の柳生貴裕講師による「マッチングプラットフォームを活用した抜去歯牙などの医療廃棄物の効率的利活用」の課題が採択されました。抜去歯牙などの手術検体は現在医療廃棄物として処理されていますが、この研究の目的は、これらの有効活用を可能にするための安定供給システムを構築し、新たな市場を開拓することにあります。今回の採択により、JST から 1 年間、1000 万円の支援を受け、本構想についてビジネスとしての可能性を評価できる段階を目指し、応用研究を行うこととなりました。

2. モルミル株式会社、ベンチャーキャピタルから資金調達

5 月 24 日、奈良医大発ベンチャーモルミル株式会社 (代表取締役：森英一朗未来基礎医学准教授) は記者会見を開き、UntroD Capital Japan 株式会社・三菱 UFJ キャピタル株式会社・池田泉州キャピタル株式会社の 3 社が運営するファンドを引受先とした第三者割当増資により、資金調達を実施したと発表しました。モルミル株式会社は、これまで開発を進めてきた分析化学的手法と核磁気共鳴法 (NMR) を基盤とした分子の動きを捉える技術により、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) を含む神経難病の治療薬開発を加速させる取り組みを進めるとしています。今回の調達資金を用いて 8 月に分子動態評価技術に基づく難病に対する治療薬の開発を研究領域とする「分子動態創薬共同研究講座」(教授 (共同研究講座) 杉江和馬先生) が設置されるなど更なる発展が期待されます。



記者会見の様様

3. 人工赤血球製剤

化学 酒井宏水教授を中心に開発が進められていた人工赤血球製剤の研究が、AMED の令和 6 年度「橋渡し研究プログラムシーズ C」に採択されました。研究課題名は「備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の医師主導治験」で、血液内科学の松本雅則教授が研究開発代表者、酒井宏水教授が製剤製造代表者、臨床研究センター長の笠原正登教授が治験実施支援代表者を務めておられます。今回の採択を受け、1) 治験薬の GMP 製造、2) 100 ~ 400mL までの投与量および投与速度の増大に対する忍容性と、薬物動態を評価することを主たる目的とした医師主導 Phase 1b 試験、とを実施することを予定しております。また、400mL の認容性が確認された場合には、Phase 2 に進み、有効性と安全性を確認することを考えております。

7 月 1 日、本件に関し記者会見をしたところ、多くのマスメディアに取り上げられ、大きな反響がありました。

4. 日本郵便株式会社近畿支社との連携協定締結

8 月 22 日、本学および MBT コンソーシアムは、日本郵便株式会社近畿支社と、医学知識を基に地域の活性化と産業の振興を図るための包括的な連携・協力体制を構築することを内容とする連携協定を締結し、その締結式を執り行いました。日本郵便株式会社近畿支社が大学と連携協定を締結するのは初めてで、近畿 6 府県で約 3400 局ある郵便局のネットワークを生かし、医師不足が深刻な課題となっている地域医療への貢献を目指します。日本郵便は国内最大規模の組織であり、地域の拠点として大きな可能性があります。今後、1) それぞれの有するネットワークを活用した地域社会の発展に関する事項、2) その他、地域産業振興および地域支援のために必要な事項で連携事業に取り組む予定です。



細井裕司理事長と
日本郵便株式会社 小池信也常務執行役員

5. MBT いのちの映画祭

第 4 回となる MBT 映画祭は、今回から「MBT みんなで守るいのちの映画祭 (略称 MBT いのちの映画祭)」と改名して、2025 年 1 月 18 日 (土)、東京の大手町にある日経ホールで開催予定です。映画作品を通して、難病関係者を勇気づける、いのちの大切さを啓発する 30 分以下の短編作品を 2024 年 11 月 30 日 (土) 締切で現在募集しております。今回の映画祭には、俳優の渡辺謙氏にも参加していただける予定になっており、第 3 回の吉永小百合氏に続く日本映画界のビッグスターの登場となります。

令和6年度指定図書が貸出開始です～選書方法のご紹介～

当館は、医学書の蔵書数が奈良県下トップを誇ります。豊富な蔵書数に加え、医学書は更新頻度が高いので、最新版の資料を提供することも当館の役割です。図書館に所蔵する本を選ぶことを図書館用語で「選書」といいます。当館では、指定図書とリクエスト図書という2つの選書方法を主に採っています。

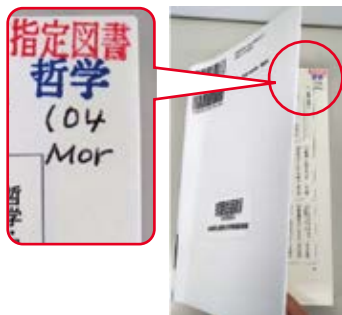
指定図書は教室推薦の資料です。推薦は医学科、看護学科の教室毎に年1回(7～8月頃)依頼しています。令和6年度については、新キャンパス移転スケジュールの関係により、例年より早い6月に推薦を依頼しました。ご協力いただきありがとうございます。既に貸出開始となっている資料も多数ありますので、ご利用ください。

リクエスト図書は利用者から館内設置のオピニオン・ボックスやメールにて要望があった資料です。リクエスト図書については、通年で受け付けています。医学書が優先的に購入となりますが、それ以外の分野の資料も要望があり、広くご意見をいただいています。

[1] 指定図書

1-1. 指定図書の本の見分け方

指定図書には、裏表紙を開いた箇所の見返し等に指定図書(赤スタンプ)と指定教室名(青スタンプ)があります。ペン書きされている数字とアルファベットは請求記号です。請求記号は指定図書以外の資料にもペン書きされています。請求記号や図書館の本の並べ方については、過去の図書館ウェビナー(https://naramedu.sharepoint.com/sites/library_webinar)>[本の住所(請求記号)をご存じですか?]で解説しています。



1-2. 指定図書を並べている場所

一部の資料は、2F閲覧室メインデスク横(写真参照)に新着図書として一時的に並べています。



指定図書専用の本棚はありません。請求記号に従って、他の資料と区別なく本棚に並びます。所蔵資料検索で検索し、検索結果に表示される本棚で見つからなかった新着の資料はメインデスク横も探してみてください。

新着図書リストは月初に図書館ホームページで公開します。新着図書リスト一覧では、指定図書とリクエスト図書を区別した記載をしていません。

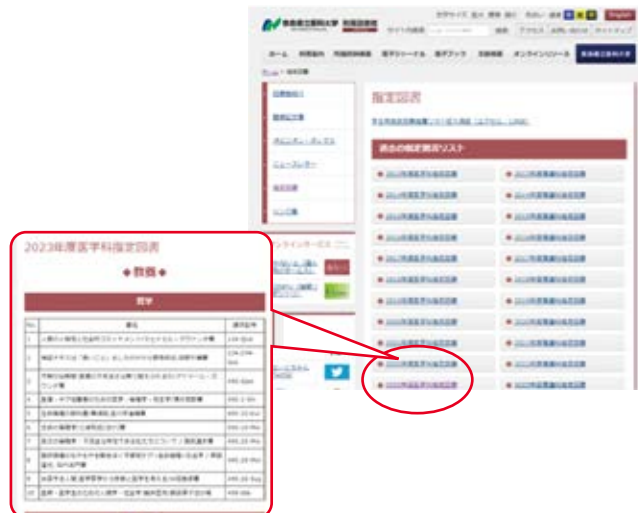
新着図書リストは月初に図書館ホームページで公開します。新着図書リスト一覧では、指定図書とリクエスト図書を区別した記載をしていません。

1-3. 所蔵資料検索で探すとき

図書館ホームページ > 所蔵資料検索 > 検索結果画面
絞り込み条件として、左サイドバー“蔵書・所蔵情報”から“指定図書”を選択できます。

1-4. 過去の指定図書リスト

図書館ホームページに過去の指定図書を一覧で公開しています。医学科と看護学科で区別したリストです。年度によっては、推薦の資料が無い教室もあります。



[2] リクエスト図書、その他

2-1. リクエスト図書

図書館ホームページ > オピニオン・ボックス > 図書リクエスト
館内設置のオピニオン・ボックス又はメール(library@naramed-u.ac.jp)までご意見をお聞かせください。過去2～3年では、年間におよそ60～70件のリクエスト図書の受入がありました。診療ガイドラインや医療系コミックの最新版、国家試験や就職試験の対策本、心理学関連の図書等、医学書をコアとしたその他の関連分野の資料の要望が多いです。リクエスト図書の一覧リストについても、図書館ホームページで公開しています。

2-2. 選書ツアー

2～3年に一度、学生及び教職員が本を選ぶ「選書ツアー」を開催しています。書店の店頭やインターネットで本を予算範囲内で選び、図書館まで報告するというイベントです。最終的な購入可否は図書館スタッフが検討します。リクエスト図書に類似していますが、選書ツアーは予算内であれば、シリーズ資料や大型本等の比較的高価な資料を要望し易いです。開催については、館内掲示板等でお知らせしますので、興味のある方はぜひご参加ください。

[3] 奈良県立図書館情報館との連携サービス

図書館ホームページ > 学内向け利用案内 > 奈良県立図書館情報館との連携サービス

奈良県立図書館情報館: <https://www.library.pref.nara.jp/>
奈良県立図書館情報館の資料を、当館を通じて貸出・返却できます。リクエスト図書や選書ツアーで不可となった資料等、当館に無い資料で奈良県立図書館情報館に所蔵がある場合にご利用ください。他館の資料の貸出になるので、取扱いには十分ご注意ください。このサービスはMyないとサービスを介した申込となります。詳細等は図書館ホームページをご覧ください。

国際交流センターだより vol.17

Beverly J Hunt教授 (King's College London) の「招聘教授」任命授与式が行われました。(8月8日)

本学の招聘教授であり、血栓止血学の権威として有名なビバリー・ハント教授が、本学を訪問され、学長より招聘教授の任命書を授与されました。

ハント教授と嶋医学部長は、国際血栓止血学会の委員会活動を通じて長年交流を深めており、今回の本学訪問につながりました。ハント教授は、血栓止血領域の様々な疾患治療の国際的な臨床研究を精力的に進めておられます。さらに、医学教育にも深い関心があり、今後は本学の5・6年生の海外臨床実習の派遣や、King's College London (KCL) からの学生の受け入れを含む相互の学生交流プログラムについて、教育開発センターを中心に協議を進めていく予定です。



前列右がハント教授



任命授与式

Prince of Songkla University (タイ) での招待講演 (8月29日)

生化学の中村修平教授が、本学の協定校であるプリンスオブソングクラ大学(PSU)にて開催された、「The 3rd Annual Health Research International Conference 2024 Health Research and Innovation for Future & Mankind (AHR-iCON 2024)」にて、「Autophagy: a key regulator of lysosomal homeostasis and aging」と題した講演をされました。本学とPSUとは2024年1月に協定を締結し、中村教授をkeynote speakerとして招待したいという先方からの依頼を受け、今回の講演が実現しました。



中村教授



講演の様子



PSU 医学部部长と

スペインからのドクターを受け入れました〈WONCA交換留学プログラム〉(2024.7.1~7.31)

総合医療学 医員 佐和 明裕

私が日本の受け入れ窓口を担当している、WONCA(世界家庭医機構)の若手医師向け交換留学プログラムを通じて、スペインから家庭医療専攻医の Arantxa López Saldaña 先生を1か月間、総合診療科で受け入れました。当科での研修に加え、宇陀市立病院 総合診療科と大福診療所にて、病院総合診療と家庭医療の各現場を見学していただきました。また、吉本教授から日本の総合診療の現状に関する講義を受けていただきました。

本留学生受け入れに際してお力添えをいただきました宇陀市立病院 西尾健治先生、大福診療所 朝倉健太郎先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。



佐和先生と

Arantxa López Saldaña

(Institut Catala de la Salut〈カタルーニャ保健研究所〉・スペイン)

As part of a recent exchange program, I had the opportunity to come from Catalonia to the Department of General Medicine at Nara Medical University Hospital. During my stay, I gained valuable insights into the approach to General Practice in Japan, including patient care, domiciliary care, kampo medicine and ultrasonography techniques. The program was an enriching experience, allowing me to deepen my understanding of global healthcare practices while fostering connections with Japanese medical professionals. The kindness and hospitality of the team made my stay very enjoyable. This experience allowed me to learn not only about medicine but also about cultural differences in healthcare, making it truly unforgettable.



吉本教授と



総合診療科のみなさんと



ご本人

第11回英語で学ぶ医学・看護学セミナー（医学科3年生対象）を開催しました（9月26日）

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

第11回 英語で学ぶ医学・看護学セミナーは、台湾・中央研究院 基因體研究センター・教授のYun-Ru (Ruby) Chen先生にご講演いただきました。タンパク質の基礎的な研究から、認知症などの神経変性疾患の病態理解と治療薬開発につながる研究への発展の経緯を、キャリアのプロセスと重ねる形でお話を伺うことができました。この度の交流をきっかけとして、海外リサクラなどを通じた交流へと発展させたいと思います。



Genomics Research Center, Academia Sinica (中央研究院 基因體研究センター・台湾)
教授 Chen, Yun-Ru (Ruby) (ルビー・チェン)

I was truly delighted to be invited by Prof. Eiichiro Mori to give a talk in Nara Medical University on Sep. 26. It was quite impressive to see ~100 medical students gathering in the classroom. I presented my research on “Pathogenic mechanism and therapeutic potential for misfolded TDP-43 and dipeptide repeats in the neurodegenerative diseases” and also shared my career path. My research motivation came from my grandmother, who had dementia since I was in high school. I focused on protein aggregation problems in Alzheimer’s disease (AD) and amyotrophic lateral sclerosis (ALS). TDP-43 and dipeptide repeats (DPRs) found in frontotemporal dementia (FTD) and ALS are the two aggregation-probe proteins that I recently focusing on. After understanding their aggregation and toxicity mechanism, we developed therapeutic TDP-43 oligomer-specific antibody and also small compounds against Arginine-rich DPR in FTD/ALS. Together, I cherish this opportunity and the great interaction with the students. Thank you.



学生の声



医学科3年 伊藤 晴加

国外の女性研究者で、英語圏以外の研究施設で主に研究していらっしゃる方のご講演に初めて参加させていただきました。専門用語の多い研究の話を英語で卒なくこなされていて、将来国内で働くとしても英語は必須になると強く感じるとともに、自分の英語での表現力を見直す良い機会となりました。



2024年4月～9月に本学附属病院にて実習を行った留学生を紹介します



Cornelia Greb
(ハノーファー医科大学・ドイツ)
整形外科
5/20～7/14



Moritz Krüger
(ハイデルベルク大学・ドイツ)
生化学
6/3～10/27



Niklas Bösing
(ケルン大学・ドイツ)
放射線・核医学科、放射線治療科
7/15～9/8



Jannik Böcker
(ウィーン医科大学・オーストリア)
心血管外科、呼吸器外科、脳神経外科
8/5～9/29



Dr. David Vogelauer
(オーストリア)
泌尿器科
8/5～8/30



David Bühnemann
(シャリテ大学・ドイツ)
耳鼻咽喉・頭頸部外科
8/8～9/8

整形外科受入れドクター

Huan-Ju Lee
(台湾・4/1～4/30)

Yu-Huan Hsueh
(台湾・4/30～5/2)

David Gutierrez
(スペイン・7/1～7/31)

Sharat Agarwal
(インド・8/12～8/30)

Parthiban Sivasamy
(マレーシア・8/19～11/30)

働き方改革だより

働き方改革へのご理解・ご協力をお願いいたします

- ・ 緊急時以外の病状説明は**平日時間内**に行います
- ・ チーム医療のため、複数医師や医師以外のスタッフと**業務を分担**します
- ・ 特定機能病院のため、他医療機関との**紹介・逆紹介**にご理解ください

医師の働き方改革

医師の長時間労働改善に取り組んでいます。
みなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

緊急時以外の
病状説明等は
平日時間内
に行います

チーム医療のため
複数の医師や医師
以外のスタッフと
業務を分担します

特定機能病院のため
他医療機関との
紹介・逆紹介
にご理解ください

 奈良県立医科大学附属病院
Nara Medical University Hospital

病院長 吉川公彦

奈良県立医科大学附属病院改革プランが策定されました

医師の働き方改革に伴う医師の労働時間適正化の推進と、本院における教育・研究・診療という役割・機能の維持を両立するとともに、地域社会のステークホルダーの理解のもとで協働していく環境構築を目指します。

(詳しくは病院ホームページをご確認ください。)



運営改革

マネジメント機能の強化
人材確保と処遇改善



教育・研究改革

関係機関との役割分担と連携強化



診療改革

県・地域医療機関との連携強化
医師の労働時間短縮の推進



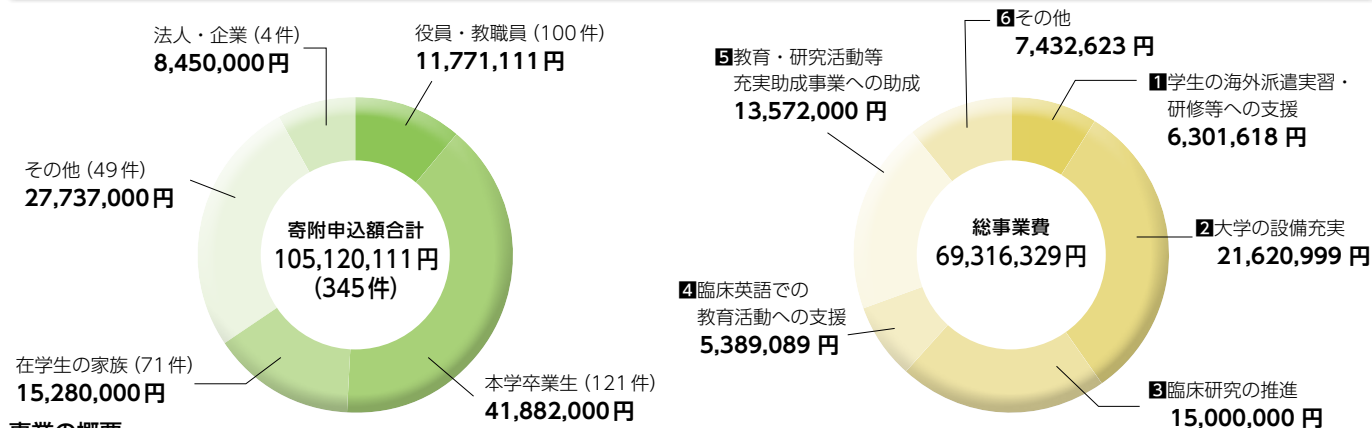
財務・経営改革

収入増・支出減への取組の推進

未来への飛躍基金だより

平素より未来への飛躍基金への多大なるご支援をいただき誠にありがとうございます。皆様からのご寄附は、教育、研究及び診療活動、大学及び附属病院の施設整備への支援等、幅広く活用させていただいております。

令和5年度のご寄附申込額と使途実績のご報告



事業の概要

①学生の海外派遣実習・研修等への支援

- ・海外リサーチ・クラークシップ
- ・臨床実習 ・海外留学
- ・その他海外研修等

②大学の設備充実

大学設備の機能向上のための整備を実施。

③臨床研究の推進

医師主導治験・特定臨床研究の実施を目指している研究者に対して研究資金の一部を援助。

④臨床英語での教育活動支援

医学・看護学の準備教育としての臨床英語の強化を図るための講座活動費を助成。

⑤教育・研究活動等充実助成事業

各所属で実施している教育・研究活動事業への助成。

⑥その他

英文校正費助成、事務費等。

未来への飛躍基金への感謝 * リサーチ・クラークシップ海外実習 (2023年度活動報告より)

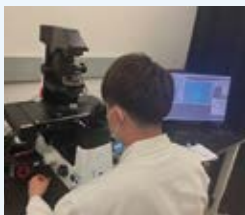
未来への飛躍基金では、リサーチ・クラークシップ海外実習の宿泊費、交通費、実習費等の一部を助成しています。 * リサーチ・クラークシップとは医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究機関にて研究に参加することで、研究マインドを育てることを目的としています。

University of Texas Health San Antonio

医学科3年 大平 雅也

今回、海外リサーチ・クラークシップでこのような貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

アメリカで以前より取り組むことを切望していた Glioblastoma の研究を行うことができ、大変感謝しております。海外留学では金銭面が大きな問題となりがちですが、未来への飛躍基金のおかげで今回このような経験を得ることができました。今後も勉強や研究に全力で取り組み、このご恩を返していけるよう努めさせていただきます。心より御礼申し上げます。



β-gal assayを確認の様子

National Taiwan University Hospital

医学科3年 有野 公人

本リサーチ・クラークシッププログラムを通じて、私は臨床研究の経験を積むとともに研究自体の視野も広がったように感じています。また、初めて海外で研究活動を行ったことは、自分の将来について考えるよい機会にもなったと思います。リサーチ・クラークシップでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、この経験を糧に大学生活を過ごしていきたいと考えています。

未来への飛躍基金による金銭面の援助があったからこそ、リサーチ・クラークシップで海外留学ができた私は感じています。ここに深く感謝申し上げます。



指導教官と

National Taiwan University Hospital

医学科3年 森田 大智

この度は私のリサーチ・クラークシップの活動に関して支援していただき誠にありがとうございました。私はこの約2か月間の研究期間で、高度な研究環境内で多くの修練を積むことができ自身の技術を大きく向上させることができました。そして、台湾で多くの人々と交流しその歴史、文化に触れることで異文化への理解を深めることができました。

私はこのリサーチ・クラークシップで得た経験を忘れることなく、自信をもって、これからの研究をはじめ、様々なことに果敢にチャレンジし、医療人として成長していきたいと思っています。



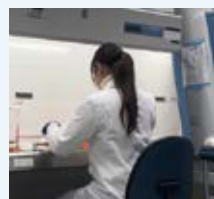
鳥来にて

University of Alberta

医学科3年 小西 菜々子

海外での研究実習留学の機会をいただきありがとうございます。この留学が決まるまで、私はほとんど研究の経験はなく、1人で海外に行った経験もなく、研究への興味だけがある状態でした。そんな中、未来への飛躍基金のご支援の元、海外で研究できる機会があることを知り、海外リサーチ・クラークシップへの参加に挑戦することを決意することができました。

最先端の研究が行われている研究室で実際に研究に携わり、研究に対する向き合い方や研究の奥深さを学ぶことができました。また、異なるバックグラウンドをもつ方々と交流を深めることができました。この経験は、今後研究を続けていく中で、また、医師として働くときにも必ず役に立つと思います。海外リサーチ・クラークシップへのご支援をいただき、本当にありがとうございました。



研究室にて

看護部の紹介

奈良医大特定行為フォーラム

救急他科外来・リソースナースセンター師長
クリティカルケア認定看護師 小川 哲平

9月15日に「第3回奈良医大特定行為フォーラム」を開催しました。

特定行為研修が始まり約10年が経過し、全国で9135名(令和6年3月現在)の修了者が活躍しています。当院でも特定行為研修修了者(以下特定看護師)は年々増加しており現在33名(令和6年9月現在)の特定看護師が様々な領域で活躍しています。特定看護師、その他の専門性の高い看護師は、在宅医療の推進のほか、新興感染症等の感染拡大時の迅速かつ的確な対応及び医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアの推進に資するものとしてその役割が期待されています。こうした看護師を活用することにより地域の実情に応じた医療機能の確保と充実を図ることが可能になると考えます。国は当初特定看護師を10万人育成するという目標をたてていました。各都道府県においても特定看護師の育成に計画的に取り組むことが求められています。

今回のフォーラムでは、第1部では特定行為研修制度の趣旨及び内容について厚生労働省医政局看護課の松田咲野先生より、国の推進事業などの政策も含めご講演賜りました。第2部では全国各地で「特定行為研修修了看護師の組織的配置・活用ガイド」に関する講演をされている千葉大学大学院看護学研究院教授の酒井郁子先生にご登壇いただき、組織としての特定行為研修制度や特定看護師活動の推進についてご講演賜りました。組織の中での特定行為研修修了者(以下、特定看護師)の役割をより明確化することで、特定看護師の増加を図り、特定看護師の推進のための組織的支援について学べる貴重な時間となりました。

また当院の特定看護師も含め、県内で活躍されている5名の特定看護師の方々に、現場でどのように活動されているかなどを発表いただき、ご参加いただいた方々と意見交換を行いました。

まだまだどの施設においても課題や問題点も多くある中、当院では昨年度1700件の特定行為を実施しています。しかし、医師・看護師への十分な周知が進んでいないのが現状です。2024年4月から「医師の働き方改革」が始まり、特定看護師の役割も大きくなってきています。組織として、育成・活動の方針を明確にし、特定看護師の活動を推進し、患者さんの治療・ケアに貢献できるよう、より一層努力していきたいと思っております。



病院長挨拶



5人の演者



研修の様子



意見交換

奈良県の病院情報システム担当者のつながりを求めて

戦略的医療情報連携推進講座・教授／医療情報部・部長 玉本 哲郎

9月28日(土)に奈良県立医科大学において、奈良病院情報システム担当者連絡会を開催しました。連絡会の開催は今回で2回目になります。第1回目は、2023年11月10日(土)に奈良県内の一般病床300床以上の病院に対して、奈良県立医科大学の上級医療情報技師の玉本哲郎(医療情報部長)、池田和之(薬剤部長)、西川哲也(情報推進室係長)の3名が声掛けを行い、奈良県総合医療センター、西和医療センター、奈良医療センター、市立奈良病院、天理よろず相談所病院などの参加がありました。病院情報システム部門の担当者が潤沢に配置されている病院は少なく、普段の業務課題を解決するためには、病院間の顔が見える横のつながりは重要であり、連絡会の開催の継続をすることになりました。

今回は、奈良県内のすべての病院に対して案内させていただき、21施設から38名の参加者になりました。当日のプログラムとして、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)デジタル人材センター国家資格・試験部 エキスパートの石田淳一氏を講師に迎え、「IPAの国家試験を活用した情報セキュリティのリスクリングと人材育成」のタイトルで講演をしていただいた

後に、「5分でできる!情報セキュリティ自社診断」のタイトルでワークショップをしていただきました。講師の石田先生は、デジタル人材センターエキスパートとして、政府が掲げる「2026年度末までにデジタル推進人材230万人を育成する」という目標に対して、全国各地で国家資格・試験の活用方法について講演活動やこどもに対する普及・啓発活動をされていることもあり、熱気あふれるお話とワークショップでの手際のよい進め方は、普段あまり経験のできないプロの仕事を見せつけられたような感じでした。ワークショップ内では、各病院のあまり大きな声では話せないような実態や先進的な取り組みをしている施設の実情が共有できたこと、また異なる病院間の病院情報システム担当者の交流ができたことが有用であったと考えています。

今後は、年2回程度の開催ができればと思っていますが、継続的な活動となるように講師の依頼や開催場所の設定などの世話人会のサポートについては、戦略的医療情報連携推進講座が行うことについて了承されました。次回は、2025年2月から3月頃の開催を目指しています。



石田淳一先生による講演



講演に聞き入る参加者



ワークショップの実施説明を聞く参加者



ワークショップで参加者をファシリテートする石田淳一先生

先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

令和6年度科研費獲得セミナーを開催しました

令和6年度科学研究費助成事業に係る科研費獲得セミナーを2回にわたって開催しました。

第1回は7月1日(月)に 理化学研究所バイオリソース研究センター 室長の 三輪佳宏先生をお招きして、「採択につながるバーチャル戦略～少女マンガが教えてくれる科研費の通し方～」と題してご講演いただきました。科研費の審査をされる立場から見た申請書のあり方などの視点も交えた非常に楽しいご講演で、かつ、ためになるお話を伺う会になりました。

第2回は7月9日(火)に、皮膚科学 新熊悟 准教授に「科研費申請で考慮すべきポイント：実践的アドバイスと事例」と題して、理論基礎看護学 松田明子 教授に「科学研究費申請の経緯とその分析」と題して、それぞれご講演いただきました。先生方からはこれまでに獲得された科研費のご自身の経験に基づいた科研費申請書作成のひと工夫や、研究計画の立て方、考え方などにも触れていただき、具体的な事例を示しながら貴重なお話をいただきました。

また、研究力向上支援センター URA 上村陽一郎特命教授より「令和7年度科学研究費助成事業への応募について」と題して近年の科研費の動向も含め、全般的説明と注意事項の説明をさせていただきました。

会場やオンライン参加を含めて多数のご参加をいただきました。今後も科研費獲得へ向けての様々な支援活動を行ってまいりますので、ご希望がございましたら是非ご一報ください。



理化学研究所バイオリソース研究センター 室長 三輪佳宏先生



皮膚科学 准教授 新熊悟先生



理論基礎看護学 教授 松田明子先生

キャンパスニュース

Campus News

3.22

第60回日本腹部救急医学会総会で発表しました

医学科6年 瀬木 はるか

北九州市で開催された第60回日本腹部救急医学会総会で、「帝王切開後に生じた外陰部巨大血腫の一例」を発表しました。産褥期に軟部組織が変化している状態で帝王切開術が施行され、様々な誘因が重なった結果、創から離れた外陰部に巨大な血腫が生じた症例を報告しました。非常に稀とされていますが、帝王切開による出産が増加している現代、類似症例を経験する可能性は十分あり、意義のある報告ができたと思えます。初めての大きな学会でとても緊張しましたが、一から丁寧に指導いただきました放射線科の山内哲司先生、茶之木悠登先生、田中利洋教授に厚く感謝申し上げます。



6.23

医学科3年生垣本月海さんが国際血栓止血学会 (ISTH 2024) でポスター発表しました

医学科3年(小児科学) 垣本 月海

この度、「Establishment of inhibitor development system and analysis of inhibitor properties in novel mild/moderate hemophilia A model mice」という題名でタイのバンコクで開催されたISTH2024 (International Society of Thrombosis and Haemostasis 2024) でポスター発表を行いました。本研究では軽症・中等症血友病Aモデルマウスの作製によるインヒビター発生機序の解明を試みました。丁寧に指導くださった古川晶子先生を始めとする小児科学教室の方々に深く感謝申し上げますと共に、今後も研究活動に精進していきたいと思えます。



小児科学 教授 野上 恵嗣 助教 古川 晶子

この度、垣本月海さんが国際血栓止血学会 (ISTH2024) で上記の通りポスター発表を行いました。本研究では、臨床的に問題となっている軽症・中等症血友病A患者におけるインヒビター発生メカニズムを解明するため、軽症血友病Aモデルマウスを作成し、インヒビター発現系を確立しました。垣本さんは1年生の頃から小児科研究室で研究に携わり、リサーチクラークシップおよびその後も精力的に研究を継続し、多くの成果を挙げたことで今回の発表に至りました。この経験が今後の研究活動やキャリア形成に大いに役立つと確信しています。

7.1 7.8 MBT 特命教員による医学部生への特別講義

本学では、MBT の目標である産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められる方に MBT 特命教員の称号を授与しています。現在、6 名の方々に MBT 特命教員に就任いただいております。ご自身の豊富な人生経験をもとに毎年 1 回本学の学生に、幅広い視野を持つ人間に育成されるよう講義をしていただいております。今回は下記 2 名の先生の講義をご紹介します。

○梅岡比俊 MBT 特命講師（医療法人梅華会理事長） 7/1

梅岡先生は、1999 年に奈良医大を卒業、2008 年に耳鼻科クリニックを開業以来、巧みな病院経営で、現在京阪神に 12 のクリニック開業まで事業を拡大し、更には 92 院が参加する開業医コミュニティを立ち上げ病院経営アドバイスも行っておられます。

講演では、今後の社会保障費の圧迫を見据え、大学時代に友人を作り、いろんな人のお話を聞き、どのような一生を送るかを考えること、自身の体験から、またコロナで持病のある方が多く亡くなったことを踏まえ“健康を学ぶこと”の重要性を訴えられました。



○コシノジュンコ MBT 特命教授（ファッションデザイナー） 7/8

一昨日パリから帰国したばかりの多忙の中、医学科 1 年生に対し、ご自身の人生哲学をお話いただきました。

講義では、①失敗は教訓、逆境をバネに！ ②コンプレックスは力、個性 ③自分の枠を破る、個性こそオリジナル ④遊びの中から始まる ⑤やればできる、しかし本気でやること ⑥人との出会いは面白い、などこれまでの人生で得たキーワードをご教示いただきました。またファッションショーのビデオ映像を流し、これらにまつわる体験談もお話いただき、学生たちはメモを取りながら熱心に聴講していました。



7.4 7.5 健康まちづくり EXPO に出展しました

関西の 8 つの医科系大学が、学術研究や医療連携に加え、産学連携によるオープンイノベーションや国際的な貢献を強化することを目的に結成された「関西公立私立医科大学・医学部連合」が、健康まちづくり EXPO2024 に参加し、健康まちづくりに関する取り組みを紹介しました。

本学は、MBT として産業創生に取り組んできた活動や、これまでの MBT 研究成果をポスターで紹介しました。単科の医科大学が意外な取り組みを行っていることに驚きを隠せない方や地域産業振興に有効な取組との感想も聞かれました。



7.29 第2回奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

大和漢方医学薬学センターでは、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを開催しております。

今回は、本学呼吸器内科学 室教授の司会で、日本鋼管病院呼吸器内科学 診療部長 田中希宇人先生に、「呼吸器領域で使える漢方薬の活かし方」というテーマで講演をいただきました。

呼吸器領域の中でも、遷延性 / 慢性咳嗽の原因を考え、原因に対する治療をお示しいただき、実臨床に沿った咳診療・がん診療における漢方活用についてご講演いただき、受講者は熱心にメモを取りながら聴く様子が見られました。

今後も漢方に関するセミナーを予定しております。開催の際には、一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。



座長を務める呼吸器内科学 室 教授

日本鋼管病院 呼吸器内科学 診療部長 田中先生

3.20
~
3.29

Crowning Glory : 模擬国連世界大会 三大会連続 優秀代表団賞 受賞

模擬国連世界大会 (National Model United Nations : NMUN) ニューヨーク大会での大健闘を皆様にお伝えしてから早一年。またもや本学チームが快挙を成し遂げました。一度目「偶然」、二度目「奇跡」、三度目「必然」とはよく言われますが、三大会連続で Distinguished Delegation Award (優秀代表団賞) を受賞した学生たちの功績を「ただの偶然だ」と言う人は、この世界のどこにもいないでしょう。

世界各地で開催される模擬国連の中で、最大規模と言われる NMUN の中でも最高峰のニューヨーク大会。世界中から 3000 人も集まるこの大会に、今年は本学から竹下沙希 (当時 6 年)、鈴木慧士 (当時 5 年)、堀江風花 (当時 4 年)、玉本咲楽 (当時 3 年)、福井優珠 (当時 3 年)、垣本月海 (当時 2 年) の計 6 名の学生が参加しました。

奈良県立医科大学は少人数ながらも、NMUN 参入からわずか 2 年足らずで強豪校の仲間入りを果たしました。国内の模擬国連 (JUEMUN) でも、高学年メンバーから Chair として 2 名、Facilitator として 4 名も選出されました。今や、日本中・世界中の大学から注目されており、米国大学から本学との合同チームの打診を受けるほどです。今年は竹下沙希が United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) (国際連合教育科学文化機関) の Assistant Director (理事補佐) に選ばれ、唯一の日本人として半年以上に渡り本大会の運営に関わってきました。医学生としての背景や知識を生かし、Background Guide (参加者が大会前に提出する Position Paper を書く上で欠かせない指針となる資料) の執筆をはじめ、参加者が作成した Resolutions の校正や大会の進行に携わりました。福井優珠は Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (ESCAP) (国際連合アジア太平洋経済社会委員会) の Chair (議長) に任命され、Director (会議監督) や Assistant Director の下で、大会運営をサポートしました。

参加者それぞれが模擬国連の参加だけで終わらせるのではなく、自身の将来のキャリアに繋がるよう、昨年に引き続き国連日本政府代表部を訪問させていただきました。今年は国連ツアーにも参加し、実際の会議の見学などを行いました。喜ばしいことに、本チームの活躍を知り、今年は JUEMUN に 5 名の新生者が参加してくれました。国際大会を目指して模擬国連プログラムへの参加を決めてくれた新生者もあり、更なる活躍が期待されます。

今後も模擬国連チームの快進撃を皆様にお届けできればと考えておりましたが、本学の方針の変更により、本年度から高学年の国際大会への参加が禁止されてしまいました。低学年から世界大会での活躍を目標に国内大会で経験を積み、準備してきた高学年の学生たちにとっては、不完全燃焼の結果になってしまったと言わざるを得ません。しかし、私たちがこれまで繋いできたバトンをここで終わらせるわけにはいきません。低学年だけでは本学の今後の国際大会への参加が難しく、低学年のみでチームを編成し、高度な知識と英語力が求められる世界大会で肩を並べて闘っていくには、今まで以上の準備時間を要することになりますが、修了生一同、後輩たちをこれからも世界に送り出せるよう、できる限りのサポートをしていく所存です。模擬国連プログラムで培った英語力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、そしてプロフェッショナリズムは、本学を卒業した後も、医療従事者として奈良県・日本・そして世界へ羽ばたいて行く私たち学生の財産となるでしょう。

臨床英語のボルスタッド教授をはじめとする先生方のご指導のもと、学生が主体となり、準備段階から本番に至るまでの全てを英語で行い、自身を英語を話さざるを得ない環境に置いた学生たちは、本プログラム修了時には自信を持って「英語が話せる」と胸を張れるようになりました。次ページでは、修了生の生の声をお届けいたします。今後も、本プログラムを通じて得た経験と知識を生かし、次世代を担う医療者として貢献できるよう、邁進していきます。

このような貴重な経験を学生の間から出来たことは、ひとえに臨床英語の先生方・秘書の末松さんをはじめ、各診療科の先生方や各関係者の皆様そして、ご寄附をいただきました皆様のお陰です。私たちの活動を応援してくださり、また国際大会参加にあたり、ご配慮とご理解を賜り誠にありがとうございました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。



模擬国連プログラム修了者一同

模擬国連プログラム修了生の声

竹下 沙希 (2024年卒) (2019-2022年度 JUEMUN・NMUNリーダー)

私は2019年に本学の模擬国連活動を立ち上げました。当初3人で始めた小さなチームでしたが、毎年新しいメンバーを迎えながらさまざまな困難を乗り越え、国際大会に出場・受賞するほどまでに成長したことを心から嬉しく思います。後輩の活躍を見守りながら、NMUN・NY2024のスタッフとして大会運営に携わり、学生の模擬国連活動をサポートできたことも非常に幸せでした。私にとって模擬国連とは、単なる英語力向上の場ではなく、国際社会問題の理解を深め、世界各国の学生と議論を交す中で素敵な友人と出会う貴重なコミュニティでした。改めて、本学の模擬国連活動に関わってくださった全ての方々に御礼申し上げます。



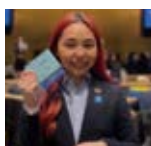
堀江 風花 (医学科5年) (2023年度 JUEMUN・NMUNリーダー)

模擬国連との出会いは今から3年前です。初めての模擬国連は自分と他の参加者との英語力の差を見せつけられ悔しい記憶ばかりでしたが、そこで諦めず、絶対に話せるようになるんだと模擬国連に挑み続け、ついにはCEFR C1レベルに到達できました。昨年は家族を亡くし絶望のどん底にいた私ですが、臨床実習と模擬国連の両方で高い評価をいただくことができたのも、家族はもちろん、応援して下さった先生方や模擬国連を通じて出会えた友人たちの支えがあったからです。英語は今では私の武器です。本学の臨床実習でも、カンファレンスが英語で行われていたり、英語論文の抄読会で発表する機会をいただいたりと、英語に触れる機会が多々あります。英語での実習が「楽しい」と思えるのも、模擬国連プログラムで得た経験・スキル・そして本プログラムを通して得た自信のお陰だと感じています。お力添えいただきました全ての皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



福井 優珠 (医学科4年) (2024年度 NMUNリーダー)

奈良県立医科大学に入ってよかったと一番思えるプログラムでした。模擬国連では、各国の大使になりきり、世界中の若者と議論をします。もちろん本番は実践的で予想外のハプニングも起こるため大変ですが、それと同じほどその準備がすごく大変でした。ですが、大変な分、ほとんどネイティブしかいない本番の会議で自分の力を最大限発揮できたときの喜びは唯一無二の体験であり、医学生では普段触れることのない国際問題や、各国連機関が過去に発行している条約について学びを深めることができました。また、医療現場においても重要視されている、チームを引っ張っていくことに必要なリーダーシップを学ぶことができるのも特徴の一つです。普段の授業や実習ではほとんど学ぶことのできないリーダーシップですが、模擬国連ではチームワークが受賞に関わってくるため、リーダー自らでチームを変えるように動くことを常に考えています。これからも模擬国連で活躍するメンバーを支えていきます。



井口 一步 (医学科5年) (2024年度 JUEMUNリーダー)

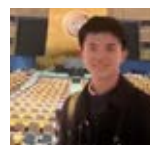
私は模擬国連に参加し、物事の見え方が広がりました。模擬国連に参加し様々な社会問題について議論を重ねる中で、1つの社会問題の背景には異なる複数の社会問題が複雑に絡み合っていることを実感しました。医療



の問題を例に出すと、非感染性疾患の背景には、貧困から生じる栄養不良や都市化に伴う運動不足をはじめとした多くの問題が絡まり合っています。これらの社会問題の課題解決に取り組む国際機関や民間企業には医師としての専門性を生かせるポストも少なくないことを知りました。臨床医として以外にも、自分の持つ英語力という武器と、将来身につける医療者としての専門性を生かせる道は多くあることを知ることで将来の可能性をワクワクして考えられるようになりました。これから、いろんな経験を積む中で、より多くの人のために自分の力を使えるように成長したいと思います。

鈴木 慧士 (医学科6年)

私は国際情勢や地政学に関心があり、2024年にNMUN ニューヨーク大会に出場しました。世界から集った同世代の若者と政治や外交、安全保障などについて幅広く議論でき、こうした特別な機会に大きな興奮を覚えました。普段はほぼ医学のみを学んでいる私にとって、こうした学問領域を超えた学びは、将来医学研究の成果を社会に還元する上で非常に大きな糧になったと思います。また、実際に国連日本代表部で働かれている方から交渉の裏側やキャリアについて伺う機会もあり、今後の進路を考える契機にもなりました。最後に、リーダーの堀江さんをはじめチームのメンバーやこの模擬国連を始められた竹下さん、そして臨床英語のポルスタッフ先生に改めて感謝を申し上げます。



岡田 七海 (医学科5年)

これまでに4回、模擬国連に参加しました。英語を話すことが好きで、そのスキルを活かしたいという思いから、毎年一生懸命に準備をしてきました。模擬国連には、医学ではなく政治や経済などを専攻している学生が多く参加しています。彼らと意見を交わすことで、新しい視点や考え方を得ることができ、自分にはない観点から物事を考えられるようになって感じています。また、日本国内だけでなく、海外からの学生との交流も非常に刺激的で、異なるバックグラウンドを持つ学生たちとの出会いが何よりの楽しみでした。



玉本 咲楽 (医学科4年)

私が模擬国連に参加した1年生の頃はコロナの影響で部活動が再開していない時期でした。もともと公衆衛生には興味がありましたが、なかなか課外活動に参加することが難しい中でオンラインで参加した模擬国連は国際保健に興味を持つきっかけの一つとなりました。模擬国連では地球環境や原子力などに携わってきましたが、どのトピックを扱う時も必ず健康とのつながりについて考える機会があり、医師として一対一で患者さんを診るだけではなく、社会も踏まえて広く考える重要性について学びました。また、英語でリサーチすることで情報量が格段に上がることを体験しました。資料を調べるにも日本語で調べるよりも英語で調べる方が多くの視点を学び、会議において英語で話して共有することで言語を超えて考えを広げることができました。学生生活の半分以上が過ぎ、残りの学生生活やその先の進路に進む時に模擬国連で学んだ広く考える、言語を超えて人と交流して学ぶ姿勢を大切にこれからも精進していきたいです。



8.3

看護学科オープンキャンパス 2024 を開催しました

看護学科オープンキャンパスを来学型で開催しました。はじめに嶋副学長からビデオメッセージをいただき、続いて川上看護学科長の講演、五十嵐看護教育部長から学科紹介及び入試概要についてご説明いただきました。そして今年の模擬ミニ講義は、精神看護学の奥田教授から「対人関係の心理学—物ごとの受け止め方（認知）と認知行動療法—」をテーマに講義いただきました。今年度も本学学生が大学紹介の発表をする時間を設け、学生が作成したインタビュー動画を待ち時間に流しました。その他に、看護学科棟内の実習施設見学、教員・在学生との相談コーナーなどのプログラムを実施しました。参加者からは、「大学の方がまだ入学していない私たちにも親切に接してくださって嬉しかったし、興味深い体験がたくさんあってよりこの大学に来たいなと思いました。」や「緊張していたけれど、明るくお話してくださったので、緊張がとけてリラックスして話を聞くことができた。詳しく色々なことを知れて今まで以上に奈良県立医科大学に興味を持った。」などの感想が寄せられました。



模擬ミニ講義



相談コーナー

8.20
8.22

令和6年度コンソーシアム実習(奈良医大・早大連携講座)を開催しました

本実習は早稲田大学との連携協定の締結を契機に平成 22 年度から本学と早稲田大学にて隔年で開催しています。14 回目となる今年は早稲田大学での開催年となり、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で遠隔で実施していましたが、早稲田大学では 6 年ぶりに対面での実施となりました。

「医工学と医学（先端ロボティクスと医療）」をテーマに、7 コマの講義及び 3 回のグループワークが行われ、最終日には発表会が実施されました。本学からは初日のグループワークに教育開発センター若月教育教授が参加され、整形外科学谷口晃准教授が「医工学と整形外科」、消化器・総合外科学松本壮平准教授が「技術の進化が拓く消化器外科医療」と題して講義されました。早稲田大学からは、医工学に関わる最先端の研究や医療への展開についてご講義いただきました。講義の中ではロボット手術の映像も紹介され、学生は活発に質問をしていて、医学と工学の連携への関心の高さが窺われました。

また、他大学、他領域の学生が意見交換し交流することで視野が広がり、今後の学生生活への良い刺激となる有意義な機会となりました。



グループワークの様子

8.31

第7回 MBT 難病克服支援 WEB セミナーを開催しました

第7回目となる難病克服支援 WEB セミナーは、過去最多となる 500 名を超える参加申し込みをいただきました。セミナーは、本学脳神経内科学教授であり、難病診療連携拠点病院委員長を務める杉江和馬教授が司会を担当しました。今回は、パーキンソン病の世界的権威である順天堂大学 医学部 神経学講座 脳神経内科 教授 服部信孝先生、希少難病 GNE ミオパチーの第一線の研究医である国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第一部 吉岡和香子先生からお話をいただきました。服部先生は、「パーキンソン病の原因を追って～新規治療法の開発に向けて～」と題して、順天堂大学で遺伝性パーキンソン病の発症遺伝子を発見し、診断や治療法の開発に取り組んでいることをご紹介されました。吉岡先生は、「希少疾患治療の新たな希望：GNE ミオパチー治療法開発の歩み」と題して、GNE ミオパチーの治療薬が 3 月に承認され、その承認に至るまでの経緯をご紹介いただきました。お二人の先生のお話は、

最先端の研究成果と治療法の開発に関する貴重な情報が盛り込まれており、参加者に大きな期待と希望を与える内容となりました。今後のさらなる進展にも注目が集まります。



(上段左) 服部信孝先生 (上段右) 杉江和馬先生
(下段左) 吉岡和香子先生 (下段右) 細井裕司理事長

9.9
~
9.13

医学科看護学科合同科目「次世代医療人育成論」を開講しました

本科目は、医学科1年生と看護学科1年生を対象とした医看合同科目であり、良き医療人育成プログラムの一つに位置づけられています。

1年次から医師や看護師により深く求められる教養「プロフェッショナリズム」を認識することを目的に、「知的生産技術」、「コミュニケーション」及び「人権教育」の3つをテーマに授業を実施しました。

「知的生産技術」では、特にチーム医療を担う医療人として求められる批判的思考力（クリティカル・シンキング）について、演習を通じて、体験的にその重要性や必要性を自ら気づく授業を行いました。

次に、「コミュニケーション」では、医療人として必要な他者との協働関係を結ぶためのコミュニケーション力を、理論から実践方法まで段階的に学べるように授業を配置し、実践的な授業を行いました。また、医療者と患者コミュニケーションの基本姿勢と視点を身につけることを目的として、患者さんから直接話を聞きました。

「人権教育」では、4つのテーマ（奈良県の男女共同参画、LGBTQ+、共生社会、発展途上国のジェンダー・人権）で講演

いただき、差別や人権侵害を無くし、共に生きる社会人を実現する態度を学びました。

最終日には、4日間の授業を通じて得たことを「コミュニケーション能力」と「共生社会」の2つをテーマにグループワークを行い、その成果を発表しました。

グループワークでは、終了時間を過ぎても発表資料のブラッシュアップを行う班が多く、熱心に取り組む姿が印象的でした。

発表会では、今年度は学生が司会を務め、発表班の紹介や質疑応答を実施し、活発な発表会となりました。発表会後は、各班が投票を行い、最優秀班に表彰を行いました。

5日間の授業を終えた学生の感想には、「医療者に必要なコミュニケーションについて、実際に体験しながら学ぶことができた」、「様々な講師の方や学生からの話を聞き、自分の考え方を改める良い機会であった」、「これから患者さんと関わっていく中で、治療以外の大切な関わり方について学べた」、「学科を問わず普段話したことのない人とコミュニケーションをとることができ、楽しかった」等があり、医師・看護師を目指す学生にとって、有意義な時間となりました。



発表会の最優秀班

9.6

「脳神経外科医が診る、赤ちゃんの頭のかたち外来」を開設しました

脳神経外科学 助教 金 泰均

2024年9月から、赤ちゃんの頭のかたち外来を開設いたしました。赤ちゃんの「頭のゆがみ」に対する関心が高まっており、ご両親からのご相談や問い合わせが増えています。「頭のゆがみ」には、向きぐせによる位置的頭蓋変形と、頭蓋縫合早期癒合症による病的頭蓋変形があります。当外来ではこれらを、私たち小児神経外科専門医がしっかり鑑別し、病的頭蓋変形であった場合は、赤ちゃんの神経発達のために手術を提案します。病気ではない、向きぐせによる頭蓋変形に対しても、よくご相談された上で、ヘルメットによる矯正を提供することもできます。もし悩まれている方がおられましたら、お気軽にご紹介ください。



9.19

実験動物慰霊祭を執り行いました

実験動物の尊い生命に対し哀悼の意を表すため、実験動物慰霊祭を執り行いました。今年度も残暑が厳しい中、たくさんの研究者に参列していただきました。

私たち医学に携わる者は、人間はもちろん動物の生命も尊重しなければなりません。代替的手段がなく、やむをえず動物実験を行うときは、動物愛護の観点から、動物への苦痛を軽減し、さらに犠牲になる動物数の削減に努めることが必要です。そして、動物の生命から得られた貴重な情報を研究成果として広く社会に還元していくことが私たちの責務です。



慰霊祭の様子

9.17

第77回解剖慰霊祭を執り行いました

グランドメルキュール奈良橿原において、第77回解剖慰霊祭を執り行いました。

今年は新たに、系統解剖30柱、病理解剖13柱の計43柱の御霊を加えて、6,907柱の御霊をお祀りさせていただきました。黙祷の後、学長の祭文奉読、医学科2年生総代の津本勇貴さんの感謝文奉読、参列者の献花と続き、最後に学長からのお礼の挨拶により終了しました。

医学の発展と医学教育のために自らの御体を捧げてくださった方々の崇高なご遺志に改めて深い感謝の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



学生による献花

7.31
8.29
9.26

MBT研究所運営会議を開催しました

MBT研究所では、月に一度のMBT研究所運営会議にて各活動の進捗報告や企画調整を行っています。会議の中では、産学官連携をテーマとした掘り起こし活動や議題にまつわる新しい提案など今後の活動に向けてディスカッションしました。

また、MBT難病克服キャンペーンの取り組みとして、2025年1月18日(土)日経ホール(東京都)にて開催予定の「第4回MBTみんなで守いのちの映画祭」の内容についても検討を行いました。より多くの方々に映像作品を楽しみながら難病についての理解を深めていただけるよう努めてまいります。

10月12日(土)けいはんな上映会、10月20日(日)奈良県防災総合訓練、10月31日(木)～11月1日(金)KSII Challenge万博、11月2日(土)東和中和南和医療圏防災会議、11月28日(木)～29日(金)イノベーションストリームKANSAI、12月3日(火)～4日(水)よい仕事おこしフェアなど今後も積極的にMBT活動の場を広げていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



受賞者報告

Winner Report

6.24

The 32nd Congress of the International Society on Thrombosis and HaemostasisにてJTH Editors' Award 2024を受賞しました

輸血部 講師 酒井 和哉

この度、6月22日から26日までバンコクにて開催されたThe 32nd Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis (ISTH)において、「Overlapping ADAMTS13 peptide binding profiles of DRB1 * 08:03 and DRB1 * 11:01 suggest a common etiology of immune-mediated thrombotic thrombocytopenic purpura」にてJTH Editors' Award 2024を受賞しました。JTH Editors' AwardはISTHの機関誌であるJTH誌の初代Editor-in-ChiefであるPier M. Mannucci博士を称え、前年度にJTHに掲載された最優秀論文の筆頭著者に与えられる非常に名誉ある受賞です。この受賞は共同研究者の筑波大学遺伝医学の宮寺浩子先生をはじめ、多くの先生方から多大なる研究協力をいただいた結果であり、心より感謝申し上げます。今後も血栓止血領域における血栓性血小板減少性紫斑病研究において国内外で活躍できるよう精進して参ります。



Winner Report

6.16

第150回近畿産科婦人科学会学術集会以最優秀演題賞を受賞しました

産婦人科学 (MFICU) 助教 牧野 佑子

6月16日、第150回近畿産科婦人科学会学術集会上において、「当科で管理した血友病A・B保因者の妊娠・分娩の後方視的検討」にて、最優秀演題賞を受賞いたしました。血友病B保因者は分娩前に凝固因子活性が十分上昇しないため補充できる施設での分娩を推奨することを示しました。日常診療でお世話になっております小児科・新生児科の先生方、ご指導いただいた前川亮講師に、改めて感謝申し上げます。



6.27

第33回日本がん転移学会で若手奨励賞を受賞しました

分子病理学 (研究医養成コース) 大学院生 佐々木 里歌

6月27～28日に奈良市で開催された第33回日本がん転移学会で、若手奨励賞に選ばれました。受賞した発表は「酸化型HMGB1は間葉系幹細胞からのミトコンドリア移行を介して大腸癌細胞の薬剤耐性を促進する」というタイトルで、がん細胞から放出されたHMGB1が骨髄間葉系幹細胞に対してタンネリングナノチューブ形成を介したがん細胞へのミトコンドリア移行を促進し、その結果がん細胞の幹細胞性が促進され薬剤耐性が獲得されることを明らかにしたものです。ご指導くださった國安弘基教授ほか多くの先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。

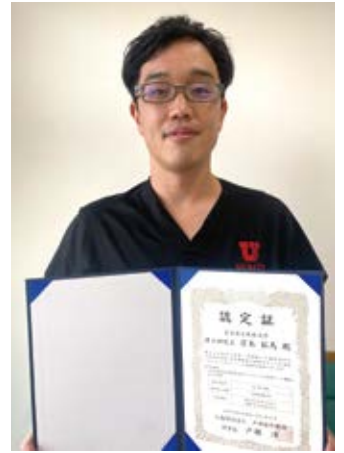


7.3

戸部眞紀財団研究助成金を受賞しました

整形外科 医員 宮本 拓馬

この度、「3次元足部筋骨格形態及びアライメントが足部アーチ機能に与える影響」を研究テーマとして、戸部眞紀財団2024年度研究助成(100万円)を受賞しました。このような賞をいただき大変光栄に存じます。本研究課題では、スポーツ選手に焦点を当て、足・足関節の3D形態とアライメントがどのように足部アーチ機能に関与しているかの評価を行い、病態解明および新たな治療法、予防法の開発につなげていけたらと思います。本受賞を励みとし、今後も研究を推進してまいります。またこの場をお借りして、これまで御指導いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。



7.6

第128回日本神経学会近畿地方会で若手奨励賞最優秀賞を受賞しました

医学科6年(脳神経内科学) 河本 由希

大阪国際会議場で開催されました第128回日本神経学会近畿地方会において、初期研修医・医学生区分で若手奨励賞最優秀賞を受賞いたしました。演題は「B細胞枯渇療法中に視神経脊髄炎の再発とともに帯状疱疹を発症した一例」です。視神経脊髄炎の再発と帯状疱疹との関連性、B細胞枯渇療法を中心とした分子標的薬による視神経脊髄炎の再発予防治療について考察し、口頭発表させていただきました。

受賞にあたりご指導賜りました杉江和馬教授、桐山敬生先生をはじめ、脳神経内科学の先生方皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も精進してまいります。



Winner Report

7.6

第8回日本集中治療医学会関西支部 学術集会で最優秀演題賞を受賞しました

公衆衛生学 大学院生 竹本 聖

第8回日本集中治療医学会関西支部学術集会において、最優秀演題賞を受賞しました。「経カテーテル的大動脈弁置換術後の長期生存率と長期予後因子の評価：奈良県国保データベース解析」と題した本研究では、奈良県国保データベースを用いて、重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術後の長期成績に関する報告をしました。本研究にあたり、今村教授、明神講師をはじめとする公衆衛生学の皆様、ならびに奈良県総合医療センターの先生方からご指導とご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。



7.7

第41回分子病理学研究会で 優秀発表賞を受賞しました

分子病理学 大学院生 西田 亮一

7月6～7日に北九州市で開催された第41回分子病理学研究会で、優秀発表賞に選ばれました。受賞した発表は「カプリル酸はミトコンドリア品質管理と骨格筋分化を促進する」というタイトルで、中鎖脂肪酸で8個の炭素を有するカプリル酸は、他の中鎖脂肪酸と異なり骨格筋細胞におけるミトファジーとミトコンドリア新生を促進することでミトコンドリア品質管理を改善し、骨格筋成熟を促進することを明らかにしました。ご指導くださった國安弘基教授ほか多くの先生方にご場をお借りし深く感謝申し上げます。

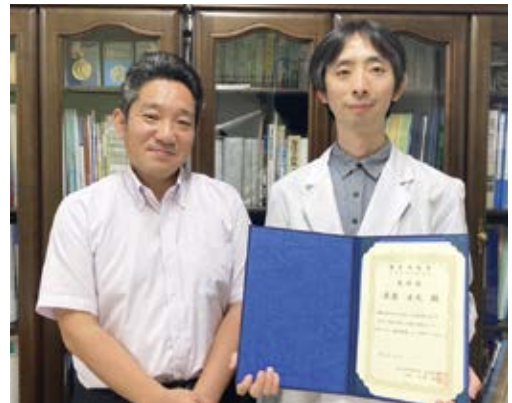


7.18

第45回日本炎症・再生医学学会で 優秀演題賞を受賞しました

免疫学 講師 北島 正大

この度、7月17日～18日福岡国際会議場で開催された第45回日本炎症・再生医学学会において、「慢性閉塞性肺疾患に対する再生医療に向けたヒト脂肪由来間葉系幹細胞療法の試み」にて、優秀演題賞を受賞致しました。本研究は、脂肪由来間葉系幹細胞を肺上皮細胞や血管内皮細胞に分化させることで、慢性閉塞性肺疾患の気腫性病変の修復を目指した基礎研究になります。この受賞は、免疫学 伊藤利洋教授、呼吸器内科学 室繁郎教授をはじめ、両講座の皆様方から多大なご協力をいただいた結果であり、心より感謝申し上げます。



8.10

第56回日本医学教育学会で 優秀発表賞を受賞しました

医学科6年 瀬木 はるか

東京で開催された第56回日本医学教育学会大会で「奈良の推し！画像診断教育の挑戦 Case of the Day」という演題を発表し、優秀発表賞をいただきました。Case of the Dayは、放射線科で約5年以上行われている教育法です。この企画を通じて国家試験レベルに留まらず、臨床現場で本当に必要とされる画像診断・臨床推論力の基盤を築くことができます。発表では、この企画の魅力を学生視点から紹介するとともに、現在の医学教育や国家試験の出題のあり方に対する疑問を提起しました。ご指導いただきました放射線科の山内哲司先生、教育開発センターの若月幸平先生に深謝いたします。



令和7年度 入試日程【医学部】

大学入学共通テスト実施日 令和7年1月18日(土)・19日(日)

学 科	入試区分	募集定員	出 願 期 間	試 験 日	合格発表(予定)
医 学 科	推 薦*1	37	令和6年12月11日(水)～12月13日(金)	令和7年2月1日(土)・2月2日(日)	令和7年2月12日(水)
	前 期	22	令和7年1月27日(月)～2月5日(水)	令和7年2月25日(火)・2月26日(水)	令和7年3月4日(火)
	後 期	53		令和7年3月12日(水)・3月13日(木)	令和7年3月21日(金)
看 護 学 科	推 薦*2	35	令和6年11月1日(金)～11月5日(火)	令和6年11月24日(日)	令和6年12月10日(火)
	前 期*3	50	令和7年1月27日(月)～2月5日(水)	令和7年2月25日(火)・2月26日(水)	令和7年3月4日(火)
	後 期		実施しません		

*1 医学科学学校推薦型選抜は緊急医師確保特別入学試験15名と地域枠入学試験22名を募集します。

*2 看護学科学学校推薦型選抜は地域枠のみ募集します。

*3 看護学科一般選抜(前期日程)は、一般枠40名と地域枠10名を募集します。

詳しくはホームページで確認してください(<https://www.naramed-u.ac.jp/university/nyushijoho/index.html>)

看護学科学学校推薦型選抜学生募集要項は9月下旬から配布中です。医学科学学校推薦型選抜学生募集要項は11月中旬、その他の募集要項は12月上旬から配布予定です。

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和6年6月～令和6年9月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

伊藤 和男 様 坂本 光章 様 矢野 寿一 様

◆30万円以上100万円未満

井上 雄二 様 岡本 聡子 様 嶋 緑倫 様
 清水 澄子 様 鈴木 秀夫 様 高比 康臣 様
 中田 荷葉 様 廣橋 里奈 様 瀧本 益生 様
 細井 裕司 様 松村 隆介 様 山本志津江 様

掲載を希望されない寄附者様 2名

◆10万円以上30万円未満

酒井 宏水 様 坂本 一喜 様 竹邑 利文 様
 築村 佳典 様 朴木 寛弥 様 山川 延宏 様

掲載を希望されない寄附者様 1名

◆10万円未満

池端 雅美 様 富家 茂人 様 永瀨 昭良 様
 本田 孝雄 様

掲載を希望されない寄附者様 7名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

阪本 晃 様 杉江 祐子 様 洲脇 直己 様
 西原 聖次 様

【法人・企業】

◆100万円以上

医療法人 二昌会 様

◆30万円以上100万円未満

奈良県立医科大学労働組合 様

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL : 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail : hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索！



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2024年 5月10日	Jbpress	生化学 教授 中村 修平	オートファジー活性化で寿命を延ばす！専門研究所が誕生、細胞内のゴミをリサイクルする仕組みで老化抑制へ
8月2日	読売新聞 なるほど科学&医療	オートファジー・ 抗老化研究センター センター長 中村 修平 副センター長 杉江 和馬	オートファジー ノーベル賞8年 応用研究加速 奈良に全国初 専門センター
8月8日	信濃毎日新聞	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	带状疱疹 ワクチンで予防可能
8月22日	毎日新聞 科学の森	化学 血液内科学 教授 酒井 宏水 教授 松本 雅則	廃棄予定献血から人工の血液 有事見据えた備蓄を目指す
8月23日	日本経済新聞	理事長・学長 細井 裕司	日本郵便支社と奈良医大が協定
8月24日	朝日新聞	理事長・学長 細井 裕司	郵便局網を活用 地域医療貢献へ 県立医科大など協定
8月27日	細胞.jp	生化学 教授 中村 修平	老化抑制の鍵を握るオートファジー の活性を制御し、加齢性疾患の予防や 治療につなげる
9月1日	NHK NEWS WEB	公衆衛生学 教授 今村 知明	機能的表示食品の健康被害 きょうか ら報告義務化 紅麹問題受け健康食品 の規制のあり方についてコメント
9月1日	毎日新聞	理事長・学長 細井 裕司	過疎地の医療支える 県立医科大 日本郵便と協定
9月9日	文化放送 くにもる食堂		人工赤血球の内容を紹介
9月9日	通信文化新報	理事長・学長 細井 裕司	奈良県立医科大学と連携協定 近畿支社 遠隔医療も視野に
9月10日	読売新聞	理事長・学長 細井 裕司	遠隔医療の活用目指す 日本郵便と県立医大など協定
9月13日	NHK ラジオ第一 マイあさ！	公衆衛生学 教授 今村 知明	機能的表示食品の制度の見直しや課 題、機能的表示食品を摂取するとき気 をつけることなどの話題
9月22日	読売新聞 病院の実力	消化器内科学 教授 吉治 仁志	肝臓がん 焼灼療法 根治に期待
10月4日	日経トレンディ 11月号	生化学 教授 中村 修平	オートファジーって何？細胞内不要 品の“リサイクル”を活性化し、新陳 代謝を促進

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

秋の澄んだ空気が肌に心地よく、紅葉が彩りを添える季節となりました。皆さまが健やかにこの季節を楽しめますように願いつつ、本号を締めくくります。

第90号学報の発行にあたり、ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集していますので、掲載をご希望の方は総務広報課までご連絡ください。

